關西大學學報

大正十一年六月十五日創刊
昭和十七年五月十日印刷
昭和十七年五月十五日發行

編輯兼發行人　神島數民
印刷所　谷口印刷所
大阪市北區堂島上三丁目十五番地
發行所　關西大學學報局
大阪市淀川區長柄中通二丁目十二番地
會員賜金振替口座二〇六〇〇四

學校報國團・報國隊成立の意義

――新入生のために――

學部報國團總務部長　水谷撰一

日支事變が段々と進捗した當時、吾々は、期間的に見た其解決を色々に想像した。それで、此事變の、一面戰爭一面建設の道程をたどる色彩が強くなるにつれ、此解決なるものは、可なり長期に亘るものとの觀念を持つに至つた。勿論それは、相當漠然とした觀念ではあつたが、何分にも、あの廣大な地域と彫だしい人口とを有する國を對手としての戰爭に、加ふるに建設である、仲々、一朝一夕に、「かた」のつくものでない事は當然豫想し得らるゝ處であつた。

世界で一番氣の長い國民を對手として爭ふ時に、世界で最も氣の短かい國民の立場は決して有利なものではなかつた。そこで、一言にして云へば、氣を長く持て、と云ふ平凡ではあるが、吾々の

心構へ

としては最も大切な肇が朝野をあげて叫ばるるに至つた。長期戰と長期建設に對する基本的心構への必要に付ての叫びである。當然な事であり、又肝要な事でもあつた。

そして、これと並行して、新體制の樹立が必要と考へられ、吾々學徒に對しても、文部省から所謂學校新體制なるものが申渡され、昨年四月を期して學校報國團が結成され、次いで夏には學校報國隊の組織を見、種々なる意味に於て、戰時下學徒の立場や心構へが強化されるに至つた。これは申すまでもなく、事變の解決が容易ならざるものであるとの見透しに基いて之れに對處すべき學徒の立場が求められたのである。

然るに、此學徒新體制の一つの現はれとしての

報國團

なるものは、遺憾ながら、餘りに形を整ふるに急であつたため、肝腎の精神が之れに伴はず、所謂、佛造つて魂入れずの嫌ひがあつた。此點は本學に於ても御多分に洩れず、吾々の最も懸念した事が、遂に杞人の憂に終ることなく、不相變舊態を拔け切れずに動いて居る。

そこへ、突如として現出したのが大東亞戰爭である。十二月八日を境として、吾々日本人全部は、茲に心機の一轉を來した。而して此日以來、吾々は幾多の感激と興奮を經驗した。然しこれが單なる感激と興奮のみであつてはならぬのであつて、ここにこそ吾々は、夫々の本然の立場を明確に認識すべきだと思ふ。即ち學校報國團の使命亦一段と重大さを加ふる次第であつて、吾々は此際是非とも、所謂學校新體制なるものの意義を把握し、其一つの具體的現はれである報國團に充分なる理解と同情を持ち、活動の萬全を期したいと念願するのである。

只茲に、留意せねばならぬ事は、今次の戰爭が、慢々的の本家蔣政權に加ふるに天下の大國米英を對手とする以上、それが愈々以て長期戰の形態を深め、事實何年又は何十年繼續するか全く豫想を許さぬ事である。從つて吾々は此戰時のみを對照としても總ての計畫は

長期を

目標として樹立されねばならぬのであるが、殊に新體制なるものは、決して、一時的過渡的性質のものでなく、戰爭中は勿論、戰後と雖も長期に亘り、或は永久に、實施さるべきものと見るのが至當である樣に思はれる。これには短兵急な思想を一擲せねばならぬ。私は、さきに報國團に對する新體制觀念の把握が如何にも遲々として進まぬ次第を述べたが、これとても、考へ樣によつてはこれでよいのではないかとも思はれるのである。急いではいかぬと云ふ原則は、實にあらゆる場合に、又、事にも物にも適用さるべきものであり、苟も眞實の意味に於て、其成就達成を期する限り拙速は之れを避けなければならぬのは申すまでもない事であるが、現下の此長期戰、長期建設を對象としての場合吾々は更に痛切に其點に關心を持たねばならぬのである。

報國團としては、團員の總てが――教授も學生も全部が――新體制の意義に對し充分なる理解と同情を示し、其線に沿つての確乎たる心構へを持つて、相共に此形體に眞の魂を打ち込む事を期する次第である。

第一九九號要目

學校報國團・報國隊成立の意義……水谷撰一(一)
專門部報國團……和田豐二(三)
豫科報國團・報國隊の組織について　八島治一(四)
學內報……(五)
校友會報……(六)
會員消息……(七)
報國團彙報……(八)
豫科入學者出身學校別調査表……(九)

專門部報國團

—その第一年を顧みて—

專門部主事
同報國團總務部長　和田豊二

專門部第一部第二部の報國團も結成以來早や一年を經過した。過渡期の一年だからと云つて了へば報國團に付いてはまだ何事も語るべきものがない樣である。然し報國團は學校教育上さう簡單に片付けられない重要性をもつてゐる。報國團の消長は

學校教育の　消長を反映してゐる。

潑剌たる報國團の活動は、生氣に溢れる學校教育の賜物である。直截に云つてその學校は伸び〳〵と生き拔く氣魄を天下に示してゐることなのである。尠くとも一年を經過せる今日に於て、我々團員は眞劍に報國團について語り合ふ必要がある。語り合ふことは工夫を凝すことであり、理論と技術を創造することである。語つて實踐し、以て我が專門部報國團をして愈々その使命達成に邁進せねばならないと私は思ふ。

專門部報國團の前身は實質上專門部の學友會である。學友會は專門部全生徒を會員とし、その總意によつて活動する自治的のものであつた。會員の選出した委員又は幹事によつて構成する委員會又は幹事會が總意を代表して會の方針や事業豫算等を協議決定し、實際上會を統轄した。會の事業は夫々の方面に部を設け、會員各自の事情、趣味、嗜好等に應じて自發的に入部した部員によつて直接遂行された。かゝる學友會の性格組織からして學校は學友會に對して形式的には監督者の地位に留まらざるを得なかつた。形式的な監督は實質上は放任である。だから生徒を以て構成する學友會が學校教育の線に副はない方向に赴く場合も起り得るし、又事實各部の部員を除いた大部分の全生徒には關心を持たれない事にもなつた譯である。然し學友會の事業としては鍛錬的な運動や、教養的な新聞雜誌文藝論等に夫々の部を設け、生徒にとつて恰好の修練道場でもあつたのである。

時局は學校教育の再吟味を要求し、文部省をして從來の學友會的な團體を

青年學徒の　眞の修養道場たらしむるために、全國劃一的に報國團なるものを結成せしめた。專門部の學友會も文部省の趣旨に應ふべく發展のための解消を遂げた。專門部は學部、豫科と歩調を合せて專門部勤務の教職員及び生徒を以て第一部、第二部の二つの報國團を結成した譯である。

報國團の機構については、眞に文部省からその大綱が例示されてゐた。專門部の報國團も大體それに準じた譯であるからその點は何れの學校の報國團とも大同小異であらう。だから夫々の報國團の特徴は大體その運營の點に存することにならう。唯多少異なるところは、專門部の報國團は學部豫科と同樣に學長が團長であり、專門部の報國團として固有の團長を戴く獨立體であると云ふことである。專門部の報國團も關西大學報國團なる大概念の中に包含されはするが、その一枝隊ではない。從つて關西大學報國團の構成要素ではない。關西大學報國團はだから報國團本來の活動をなすものではなく學部、豫科、專門部の各報國團の連絡を圖るに過ぎない。偶々學長なる唯一者を夫々の報國團が團長に仰いでゐると云ふ點に於て人的に密接不可分の一體の團隊ではあるが、組織的に一體ではないのである。

報國團は實踐を生命とするものであるから理論は別として夫々の報國團が充分活動し得る爲めに創設された機構なのである。副團長は專門部長が當り、各部の部長には專門部勤務の教職員が任命されるその他報國團として顧問、總務部長補佐として理事なる機關が設けられてゐる。

幹事は生徒中より團長が選任し、各部に若干名づゝ配屬されてゐるが、學友會の如く委員會又は幹事會なるものを構成するのではなく、部長の指導に基き部務を處理し、部員を統轄する權限が附與されてゐる。

部會、總務協議會、審議會、役員總會なる審議機關が學友會の委員會又は幹事會に代つて設けられてゐるが、部會と役員總會以外に於ては幹事が審議權を持たない點、各審議會はすべて所謂

指導者原理　に依つて審議が行はれる點が學友會と異なる。

報國團の推進力としての總務部、剛健旅行、勤勞作業等團體訓練を目的とする修練部、體位向上並に國防技術の修得を目指す國防訓練部、體練部、文化教養のための教養部、福祉增進を圖つて報國に邁進せしめるための厚生部の六部を事業として設定されてゐる點は大體に於て文部省の指示大綱によるものであるから今更多言を要せぬであらう。

學友會は大別して運動競技及び教養の二種目の事業をもつたに對し、報國團は更に團體訓練、全體の體位向上に關する事業を强調してゐる。從つて報國團に於ては學友會時代の所謂選手制度を採用すると同時に、全生徒團員をして必ず何れかの事業部に參加せしめる事を期してゐる。學友會とは異なる報國團精神の現はれであると云へよう。

かゝる機構をもつ報國團は如何に運營すべきであらうか。報國團夫々の特殊事情に依つて運營の方法も自ら異なる譯であるが、一般的に運營問題については先

づ報國團の目標乃至使命が判然としてゐなければ解決されない。從來學校教育上の問題として知育の偏重、德育體育の輕視が論議された。眞の皇國臣民たるためには知德體は本來合一にして不可分離のものでなければならぬ。知育なきものも德體育を缺くものも臣民としての充分なる素質をもたぬものと云はねばならぬ。それ故學校教育にして三育中の知育のみ偏重したとするならば、その非になること議論の餘地がない。屋內の敎場を中心とした學校敎育に配する運動場を、山地田畑を、工場を中心とした學校敎育がなければならない。報國團は專ら敎場以外の道場に於て德體育を行ひ、謂はゝゝところの知育の偏重を是正せんとするものである。だから報國團は團體强歩、食糧增產、諸勤勞作業、運動競技、國防技術防空訓練、見學旅行、調査、藝能等の諸事業を通じて體位の向上、德操の高揚に努めるものである。

完璧を期す　從つて報國團は學校敎育の一翼を擔つてゐるものと云はなければならぬ。報國團の運營は學校自體の事業である。報國團の運營に力瘤を入れない學校は敎場內の授業に無關心なる學校と同樣、その職域に於て國家に盡さゞるものとして自戒すべきである。

唯茲に考慮さるべきことは所謂授業が學校直接の事業であるに對し、報國團の運營は學校からの一任により報國團自體が行ふ事業であると云ふ間接的な形式を具へてゐることである。而も報國團の運營は學校敎育の重要なる要素である。此の實質が存する限り相成るべくは報國團即學校の觀念に徹し、報國團の事業を學校と直接の關係に置かしめたいものである。形式が實質に副はざる場合、ものの發展に障碍の生ずることを私は我が報國團の光輝ある第一年を顧みて思ひ出される。序ながら運營上一言すれば、報國團は學友會と違つて團員に自由を與へざるが故に報國團は正當に運營されないとの批難は報國團の使命に徹せざるための言であつて、報國團運營上の根本的障碍となるものでない樣に思はれる。

報國團の運營は上述報國團の使命に向つてなされなければならぬ。然らば專門部報國團は具體的に如何なる方法を以て運營さるべきであらうか。具體的方法を語ることは徒らに煩瑣に流れる嫌ひがあるから、その一々に付いては割愛したいと思ふが、唯報國團運營にもそれ特有の幾多の運營要素とも云ふべきものが綜合的に働き合はなければならないこと丈を一言して置きたい。例へば物的要素としては第一に專門部專屬の運動場が必要である。前にも一言した樣に報國團の道場は山にあり、川にあり、工場にあり、特に團員各自の家庭にある譯であるが、苟且にも報國團が團體敎育をなす限り、常設の一定した運動場を專屬せしめる事は不可缺の要素でなければならぬ。運動場の有無によつて運營方法に非常な相違を來たす譯であるが、結果は一定の練兵場をもたぬ軍隊の如く、時間と努力に相應した效果を擧げ得ないことになる。

人的要素に　於ても種々語るべき事柄はあるが、何を措いても專門の敎育者又は指導者の充實を圖らなければならぬ敎授なき學校は觀念上考へ得られるにしても、實際それは學校でないと同樣、專門の敎育者を持たぬ報國團は學校敎育の機關でなく、報國團でない。敎育者を持たなければ報國團は自滅する。「何を措いても」と云ふのは敎育者の有無が報國團の存否に係るからである。

人的物的諸要素が整備され、それ等が有機的一體的に活動するところに報國團は使命を達し得る。報國團を强化する意味に於て、報國團を母體とする報國隊が結成されても、報國隊の精神は取りも直さず報國團の精神であつて、精神に於て變るところがない。唯非常時局即應のために機構上相違があるに過ぎない。されば報國隊が結成された今日に於ても人的物的諸要素整備の急務なることは毫も變りがない。寧ろそれがために程度に於て高まつたと云はれ得るであらう。

我々が報國團の事業を遂行するのは單に個人的な趣味嗜好のみに基くものではない、學校敎育完成のためである。大にしては國家御奉公の一端である。眞劍な態度を以て報國團に臨まねばならぬ。

學生生徒は今日の國家の中核ではない將來の帝國を荷つて立つべき將來人である。青少年學徒に賜はつた御勅語に明かな如く、帝國の隆昌を永世に維持するの大任をその双肩に荷つてゐるものである。この有難き大御心に感泣し以て負荷の大任を全うし得る樣報國團敎育を完成しなければならない。

關西大學報國團綱領

本團ハ敎育勅語並ニ青少年學徒ニ賜リタル勅語ノ聖旨ヲ奉體シ國體ヲ尊重シ國是ヲ認識シ學學一致戮力精進文ヲ修メ武ヲ練リ剛健ノ氣風ヲ養ヒ報國ノ精神ニ徹シ以テ負荷ノ大任ヲ全ウセンコトヲ期ス

豫科報國團
報國隊の組織について

豫科報國團
總務部長　八鳥治一

清新潑剌たる三百二十名の新入生諸君を迎へて我が大學豫科報國團は第二年目の活動に入つたのである。新入團員の爲めに組織内容の一班を記し參考に供する。

報國團の目的は云ふまでもなく教育勅語並に青少年學徒に賜りたる勅語の聖旨を奉戴し、學學一致修文練武を通じて報國精神に徹したる

學◇風　を作興することにあるのである。この目的達成の爲めに總務、修錬、國防訓練、體錬、教養、厚生の六部を置き、國防訓練部、體錬部、教養部は更に幾つかの班に分つたのである。從つて各部各班の活動は總てこの大目的に向つて集中されねばならぬのである。

總務部は團活動の中核として事業全般、會計の企畫統轄をなすところで、學級主任、各部長、事務主任が理事として部務に參畫することになり、生徒幹事には各學年の學級委員が學級幹事として直屬してゐる。

修錬部は勤勞作業、剛健旅行、合同體操、宿泊訓練等、集團的心身鍛錬を行ふもので、剛健旅行は年三回行ふ豫定である。毎回とも十五粁乃至二十粁のコースである。勤勞作業は昨年度は夏期休暇前と秋期に行つた。學内に三段、學外に三段、報國團委屬の

鍛◇錬　農場を持つてゐる。荒地の開墾から播種まで一通りの工作をなした。目下昨秋蒔付けに麥が勢よく伸びて收穫時の喜びを思はせる。本年も更に開墾、整理を行ひ、食糧增産への協力をなす豫定で、一部分は既に實行してゐる。麥のあとには甘藷を植ゑる計畫を立てゝゐる。

國防訓練部は戦時下我が報國團が最も重點を置く部であつて、現在活動中の班は航空訓練班、射撃班、銃劍術班、馬術班、自動車班である。

體錬部は第一體錬部（柔道班、劍道班、弓道班、相撲班、軟式野球班、硬式野球班、軟式庭球班、硬式庭球班、陸上運動班、排球班、籠球班、蹴球班、ラグビー班、體操班）及び第二體錬部（スキー山岳班、漕艇班、水上班）に分ち、强健なる心身並に規律ある動作を錬成するもので、第一體錬部は學園内にて練習し得る班であり、第二體錬部は學外にて訓練するものを含む。生徒は必ず國防訓練、體錬兩部内の何れかの班に所屬すべきものに規定されてゐる。本年は新入團員に對して一ケ月の餘裕を與へそれ〴〵希望の班の見學、練習の機會を作つた。

教養部は生徒の

知◇性　情操の醇化向上を目的とする諸種の事業を行ふ爲めに次の各班が設けられてゐる。

修養班は班員相互の修養は勿論であるが、團主催の下に團員全體の爲めに有益なる講話を聽く事になつてゐる。昨年度は本間俊平氏の講話を拜聽した。

學藝班は「豫科年誌」編輯の母體をなすものであるが、更に短歌、俳句の會又は同好者が特殊問題を研究する場合に正しい指導をなす。

藝能班は、現在謠曲、書道の二組に分れてゐる。この班の活動は鑑賞方面ではなくて自ら實踐するのである。現在總務部直屬のブラスバンド、合唱團も將來この班に所屬することにならう。

美育班は造形美術、音樂鑑賞の正しき態度を指導するもので、現在はレコードに依る音樂鑑賞を行つてゐる。將來博物館の見學等をなす豫定である。

語學班は現在英・獨・佛の三組に分れて活動してゐる。將來支那語、伊太利語、羅西亞語、馬來語等の講習をも計畫してゐる。

博物班は自然に親しみ眞摯なる態度を以てその實相を究明せんとする精神の養成に努めるもので、鍛錬農場の管理以外に學級單位に花卉栽培をなす計畫をしてゐる。

教養部への加入は强制しないが團主催の場合には全員參加することを要する。

厚生部は生徒團員の風紀衛生その他

生◇活　の全般に亘り監督指導斡旋をなすのが目的で、昨年度に於ては厚生施設に力を注いだ。本年度はレントゲン檢査等健康方面に主力を置く計畫を立てゝゐる。

次に報國隊は昭和十六年八月時局が緊迫すると同時に全員一齊に學校報國團の修錬組織が一段と强化され、指揮系統確立せる隊を編成することになつた。報國隊の目的は「大學豫科報國團に於ける集團的修錬組織を强化し、教職員生徒の總力を結集し、適時出動國家の緊急業務に奉仕し挺身奉公の誠を效さんことを期すること」にある。

昭和十七年度第一學期（四月—九月）の隊編成（本隊のみを記す）は次の如くである。（表を省略）報國隊員の七割は

防◇空　勤務員として、北消防署、淀川消防署、今福消防署の三署の配屬を命ぜられ、他の三割は自校防衛隊として學園防護に當る。

消防署配屬の防空勤務員は現在上級生を以て之に當てゝゐる。各署配屬の當番責任者は警戒警報發令と同時に消防署に參集、他の隊員は學校に集合、命を待つことになつてゐる。新入隊員は目下教養訓練を受けてゐるので、來る五月十七日の第一回實科訓練を受けた後、直ちに配屬署の割當をなす豫定である。

學園防護の第一陣をなす報國隊として活躍する組織になつてゐる。

學內報

靖國神社遙拜式

本年の靖國神社臨時大祭にあたり本學に於ては、畏くも御親拜の四月二十五日午前十時十五分を期し夫々千里山、天六兩學舍校庭に遙拜式を擧行、殉國の英靈に敬虔な默禱を捧げて終了。千里山學舍では式後全員忠靈塔に參拜して先聲諸氏の英靈に感謝の誠を捧げた。

又天六學舍では正井專門部長の「大東亞戰爭下初の臨時大祭」の意義を强調した訓話があつた。

天長節拜賀式

四月二十九日大東亞戰爭下の天長の佳節に當り、本學では夫々左の通り拜賀式を擧行、謹んで聖壽の無窮と、皇室の彌榮を祈念し奉つた。

學部　午前九時　豫科講堂
豫科　同九時半　同右
專門部　同九時　天六學舍講堂

學級擔任教授

▽第一大學豫科
大小島眞二教授(三)　上道直夫教授(二)　八島治一教授(一)
▽第二大學豫科
三枝樹正道教授(二A)　西井克巳助教授(二B)　山田松太郎教授(二CD)　岡本勝治郎教授(一A)　三谷友吉教授(一B)　河村信一教授(一C)　廣瀨捨三助教授(一D)
▽專門部第一部
法律科＝福島四郎教授(三)　國歲胤臣教授(二)　柳瀨兼助教授(一)
經濟科＝三谷道麿教授(三)　佐伯三郎教授(二)　矢口孝次郎教授(一)
高商科＝中村良之助教授(三)　片岡甚太郎教授(二)　植田重正教授(一)
▽專門部第二部
法律科＝川上敬逸教授(三)　植田重正教授(二)　福島四郎教授(一)
經濟科＝國歲胤臣教授(三)　三谷道麿教授(二)　矢口孝次郎教授(一)
商業科＝中川庸太郎教授(三)　佐伯三郎教授(二)　中村良之助教授(一)
國漢科＝高橋盛孝教授(三、二)　安川安太郎教授(一)
英語科＝菅守常教授(三)　安川安太郎教授(二)　片岡甚太郎教授(一)

追再試驗卒業者

專門部第一部—中村輝男、山岡信次（以上法）　馬場喜一、大眉修、中野耕作、打川友三郎、朴壽用（以上經）　西井文三、大塚治夫、津村好彥、中谷美喜夫、衞藤直之、本村信義、森口信幸、杉森克巳、金井亮（以上商）

專門部第二部—堀井繁雄、小野眞、尾上政喜、若林利宣、勝部宏、栗田茂、藤井行雄、越田壽幸、北川薰、北川貞見、宮岡謙二、望月省吾、鈴木芳一、中島千秋、杉本利明（以上法）　曾和實、中林幸男、平見忠（以上經）　池水吉郎、立石忠治、樟井喜市郎、米田實、中西三郎、中尾良作、野本信一、松成直一、福井博、神保守之助、平山松治、森川治男、高尾茂博（以上商）　北川宣武（國）　高澤徹、椿政一（國）

進級成績優等賞狀受領者

專門部第一部—吉永敏夫（經二）　高永柱
糀矢昇次郎、吉村清三（以上高商二）
上武文夫（法一）
專門部第二部—小倉俊三郎、森島忠三、小島信勝（以上法二）　岩淵秀三郎、諏訪次郎、横田文吾（以上商二）　西村貞三（特待生）　田中正治、篠田豊（以上國二）　清水如喜（英二）　馬詰眞一郎、西村攝（以上法一）　小堀實、猪原清夫（以上經一）　瀧川一雄、本城健一（以上國一）
第一大學豫科—富岡寬、幡井清（二）—以上特待生＝目連賢一郎（一）
第二大學豫科—溫美保雄、江藤孝（一）

豫科文化講義

大學豫科に於ける本年度第一回日本文化講義は、大正大學教授文學博士楢尾辨匡氏を聘して五月八日午後一時より講堂に開催「發生日本の發達」に就いて大樣次の如く語られた。

▽……正義とは人間としては棄はざるの生活で、即ち育て培つて行く生活である。茲に勤儉力行の思想が生じ體得し得ざる觀念の『正』がある。主知的な『正』にあつては愛であり、利であり知などである。

▽……我が國精神の上にある『正』は感得せらるべきでもなく唯一筋に『召さるゝ』を待つにある。『召す』とは天下唯一人の現人神たる天皇により表はされ給ふた眞理であつて知解し知悉し得べからざる事である。

▽……即ち承詔必謹の思想も茲にあるので、我が國民のこの『正』を養ふの生活に於て初めて日本の發展が期し得られるのである。

がくほう抄

△和田豊二教授—町村合併により南河內郡富田林町大字喜志三六六と町名變更
△河村宜介教授—去る四月二十日より文部省で開催の日本諸學振興委員會經濟學會に出席
△奥田甚一書記—學報課勤務中の處、去る四月二十一日逝去、遺族は奈良市法蓮南一ノ一二二〇、母奥田たけ殿

校友

南京支部創立總會

輝かしき大東亞建設の一翼たる新興中華民國の首都南京にも支部をとの熱望から去る一月四日二、三校友の會合に初る結成運動は四月二十六日創立總會を擧行する運びとなつた。

當日午後五時南京の銀座、中山東路の「新高」三階別室に集合、嘗ては千里山に、天六に共に學びし學友と想へば又格別懷しく自己紹介ののちに午後五時半都大路を一路城南の盛り場夫子廟に向ひ、北京料理の一流店「高德福」に着定刻江口透氏の挨拶により總會開催、校友各位はそれぞれ大陸の實業界、官界に確たる地位を有せらる方々とて話題は大陸を呑むの概あり、又江口透氏（元千里山柔道主將）富田英雄氏（元運動部長）など學園時代多彩であつた人々の追想談は又華やかに次から次へと爆笑を導き出す北京料理が進むにつれて話はどん〳〵とはづみ、時に江口透氏を支部長に推すの議出づるや滿場一致可決して午後八時總會を終了、引續き支部長披露宴並に懇談會を〝三和〟に開催

江口支部長の支部員諸氏の奮鬪を望むや切との就任挨拶ののち幹事富田氏の祝辭あり宴に入れば終始和氣藹々の內に時の過ぐるを知らず、懷しの學歌、學生歌に何かしら胸が熱くなりつゝ歌ふこれに次いで富田氏の十八番「詩吟」を皮切に各氏の隱し藝が披露される。斯くて誰の胸にも樂しく殘つてゐた青春の想出を、幾年かの追憶をたぐりよせる樂しさに再會を確約しつゝ盛會裡に終了した。（先般發表の記事は支部の發展擴充により、一應この記事を創立總會記と致します）

支部事務所　南京中山路五〇號、江口方

支部長　江口　透

幹事　富田　英雄、宮口　孝司

會員　江口　透、宮田　英雄、宮口　孝司、江口達太郎、水門　次作、赤座　兵衛

送別會や秘話公開

秀麗會關東州支部

第七十一回秀麗會は山下三郎君の送別會を兼ねて三月十八日午後六時より山縣通のカズベックに開催、會するもの

山下、木村、高濱、秀島、前川、川野、平井、竹若、濱本、萩原、岩本、加來、豊永、小川、荒川

の十五名、初出席の滿洲輕金屬製造會社濱本君の挨拶あり、會員の紹介を終る。次で今般新京へ御榮轉の大阪商船山下君の送別會に移り、平井君起つて同君の功績を讃へ、送るに粗宴を以てせし事を謝すれば、山下君繼々これに謝辭を述べられ愈々君國の爲に邁進せん事を誓ふ。高濱支部長の忠臣十吟講義に、川野君の內地最近の事情傳達に一同和氣藹々あるうちに九時過ぎ解散した。

◇第七十回秀麗會の記

秀麗會第七十回例會は例によつて寺內通りの海務協會に開催、會する者十四名、久々出席の高木君、通知の到着せざる事を以て欠席の理由とし抗辯大いにつとめ話はそれからそれへと展開する。そこで高濱支部長「手紙が遲れる」の題で、その昔宇治橋の邊りにりんしゅ庵の翁ありける……といともユーモアたつぷりな十分間講義をして下さる。その次は先輩から順次何か一つづゝ專門的な祕話を公開して頂き、學歌朗唱九時過ぎ散會した。

當日出席者——高濱直一、木村儀八、川野勳平、山下三郎、前川嘉一郎、萩原博、岩本壽三郎、松田久雄、北條茂義、高木嘉一郎、平井三郎、荒川彌一郎、小川立朝、竹若隆三

清和會

三月二十五日夕北田康民君の榮轉に對する祝賀會と銃後心構への座談會として清和會を開催、同時に出征會員巽千代造部隊長に慰問文の寄書をして至極愉快に一夕を過ごしたが、出席者は主賓北田康民君のほか左の十名である。

岡島　澄男　松本　孝　前川信之助
岸田駒太郎　濱崎保太郎　茂野　泰久
岩窪　亨　前田　金吾　梶　榮
安田清治郎

新代議士中の校友

去る四月三十日行はれた劃期的な衆議院議員選擧に見事當選の榮を荷はれた本學關係者は左の十二氏である。

田中　藤作氏（大2專法）大阪第二區選出、辯護士、大阪府議、翼賛會大阪府支部參與など

高梨　乙松氏（大9專法）大阪第三區選出、辯護士、油谷機械工作所重役

菅野和太郎氏（菅講師）大阪第四區選出經濟學博士、前大阪市企畫部長、翼賛會府支部參與など

大川　光三氏（大12專經）大阪第四區選出辯護士、府會副議長、翼賛會府支部協力會議員など

勝田　永吉氏（元講師、協議員）大阪第五區選出、辯護士、元政務次官、當選六回

岡田啓治郎氏（大4專法）京都第三區選出醬油釀造業、京都府會副議長、翼賛會、中央協力會議員

小林　絹治氏（大2專法）兵庫第三區選出、元參與官、當選四回

清瀨　一郎氏（元講師）兵庫第四區選出辯護士、法學博士、元衆議院副議長、當選八回

信正　義雄氏（大11專法）滋賀縣選出、辯護士、滋賀縣會議員、大津市會議長、縣翼賛壯年團長など

小川鄕太郎氏（元講師）岡山縣第二區選出、元商、鐵相、當選九回

金井　正夫氏（元講師）鹿兒島第二區選出、辯護士、元參與官、當選四回

內田　信也氏（元評議員）茨城縣第一區選出、大昌汽船取締役會長、元鐵相、當選七回

會員消息

氏名下の數字中、漢字は大正年數、算用數字は昭和年數を16前は三月、16後は十二月卒業を示す、又括弧内にある消息は業務動靜

大　法

一番ク瀬誠藏（7）佐世保市福石町一二三（九州配電會社佐世保營業所）

越智比古市（7）香川縣善通寺町中通、大島イハ方（善通寺師團軍法會議陸軍法務中尉）

千葉　計次（10）布施市楠根町稻田一五六七ノ一

塚本榮作久（15）兵庫縣川邊郡園田村小中島、電熔鋼（尼崎市、電熔鋼業會社）

新本　智亮（16後）神戸市灘區青谷町一ノ九二、青谷莊内（神戸市役所）

西浦　堯三（8）京都市東山區山科東野八反畑町官舍（京都刑務所庶務課）

大　政

小野田一正（16後）京城府本町二ノ三四不二館内

荻阪　操（12）大阪市住吉區北島一ノ一三九

鎌田　爲市（7）（大阪府中河内郡八尾町立青年學校）

大　經

西田　克巳（16後）奉天市大和區霞町四〇ノ四、河越舍宅（河越商事會社）

政井　武（13）大阪市西淀川區中島町七二二（關西大學第二商業學校）

大　商

村上　芳治（15）（大津市藤尾、東邦化學工業會社）

安田　義哲（16後）西宮市上瓦林熊野五一六、啓明寮内

渡邊　四郎（10）豊中市櫻塚東通一ノ六（東淀川堀上通郵便局長）

專一商

小林　勝見（9）大阪市港區九條通一ノ八一、廣瀨方

中條　得一（12）（京城府南大門通二、丁字屋商事部）

中山準一郎（14）東京市中野區櫻仙町一六、明來莊（自動車統制會）

增野　良員（12）山口市天華九三二

横山　茂樹（14）奉天市朝日區義光街三ノ一七、國務院官需局奉天支局官舍（同上局）

專二法

有岡　定行（16後）大阪市北區曾根崎上一ノ二、石川方

北村清太郎（12）福山市松山町、福山營林署長官舍（同署長）

辻元　外男（11）（奉天省蓋平縣、蓋平義勇隊蓋平訓練所）

中村　武雄（3）神戸市灘區青谷町三ノ四六

野坂　眞三（15）東京市四谷區左門町一五（臺灣總督府東京出張大阪米穀事務所）

藤城　勳（13）（大阪市北區大深町、大阪海上火災保險會社金澤支店）

中川　貫義（15）大阪市東淀川區瑞光通四ノ八（草場計器製作所、計理士）

三浦　忠義（9）吳市阿賀町、吳海軍工廠小倉寄宿舍第十一寮六〇室（吳海軍工廠醫務部）

山田　克巳（13）臺北市文武町三ノ二甲三號（臺灣總督府殖産局物資調整課）

專　國

田中　功（16前）（兵庫縣航空工業學校）

中井　安雄（7）東京市大森區新井宿二大森ホテル一〇二號室

福田　正次（16前）（廣島市千田町、廣島文理科大學哲學科在學）

專　文

柴田　由德（14）（三菱電機會社世田谷工場大阪出張所）

西尾總一郎（3）名古屋市中區矢場町一ノ七二（西尾總一郎商店）

宮島　基河（14）（京城府光熙町一、京城人文中等學院内）

鐵局經理部出納課、立命館大學法科在學）

牧野　成道（15）尼崎市汐町一、松本光吉方（淀川稅務署）

森本　守男（16後）大阪市住吉區西田邊町一四五ノ一（西消防署）

專二經

伊藤　幸八（16前）（神戸市湊東區東川崎町一、大阪鐵道局神戸電修場）

池田　正作（16前）（中華民國太原、華北交通會社太原鐵路局經理處第一主計課）

玉井　磨輔（明42）新京特別市大同大街四〇六號、滿業舍内（滿洲重工業會社）

專二商

尾原　東成（8）（京城府貞洞町一ノ二八鐵鋼販賣統制會社京城支店）

北岡　醇平（10）平壤府船橋町八三（平壤府新里町二〇九、西鮮トヨタ自動車販賣會社）

小山　松男（14）北海道空知郡栗澤村滿眞布市街地（小山製藥研究所）

熊野　猛（八）金澤市彦三二番丁五（大

校友會費御拂込方御通知

昭和十七年度校友會費御拂込の時期が參りました。一昨年度までは御拂込は集金郵便によつてゐましたが、該制度が取止めとなりましたので、御手數乍ら本誌に挿入の振替用紙により御拂込み下さい。

振替貯金番號　大阪五五五九四番　關西大學校友會

尚、昭和十七年度用校友會員名簿は豫定より大へん遲延して居りましたが、この程漸く校正を了し、印刷に附することになりました六月上旬には御屆け致しますから、然樣御諒承願ひます。

昭和十七年五月十七日

關西大學校友會

報國團彙報

數部を廢止・休部

專一、二の劃期的內部改革

專門部第一部では新年度より米式蹴球部拳闘部を廢止、講演部を休部する事に決定したが、これは學徒體育振興會の認定競技種目も考量斟酌し、又講演部は時流に即して休部することになつた。專門部第二部でも同樣の趣旨と第二部の特殊性に鑑み陸上競技、水上競技、庭球、ラグビーの各部を廢止、講演部を休部する事となつた。

國防訓練部に新部

銃劍道部を創設

專門部第一部、第二部報國團では學校報國團に對する要請と國防的見地より新たに國防訓練部內に銃劍道部を新設、本年度より事業を行ふ行となつたが、該部は既に昨年九月誕生を見有志的集りによつた技の修練に努力されてゐた。

教養部を文化部に改稱

—舊學會は六研究班へ—

（學部）新年度より學部報國團の教養部が文化部と改稱され、同時に舊學會を研究班として內包することゝなり又教化部を教養部と改稱した、これによつて部內の改組を行ふと共に充實を期してゐる。

▽文化部（舊教養部）　部長　岩崎教授

、研究部（舊學會、六研究班に分つ）

法律研究班　指導教授　中谷教授
政治研究班　同　岩崎教授
經濟研究班　同　磯部教授
商學研究班　同　加藤教授
哲學研究班　同　武內教授
英文學研究班　同　堀教授

專二・商業研究部事業開始

專二報國團研究部のトップを切つて商業研究部では、去る五月五日幹事室に新入生部員を加へて研究會を開催、從來の同部事業が主として名士招聘による講演であつた處、茲に再檢討再出發が行はれる事となつたのである。

因に同日のテキストは『生產及び交換の理論』—高田保馬博士著—である。

學內演奏會終る

學部音樂部洋樂班の恒例の第三回學內演奏會は五月四日午後三時より尙志館集會室に開催、二部に分かれる曲目の纖細なメロディーに學生を感動せしめ眞摯な演奏に感謝されつゝ終了した、同日の曲目を示せば次の如くである。

▽第一部—1序曲、小公女（ハーデイ）2軍隊行進曲（シューベルト）3小品三曲

▽第二部—4ボレロ幻想曲（クツクナー）5組曲（カンナー）6序曲、幸福の星（フレンド）

日誌、出納帳を常置

（專一、二）專門部報國團では各部の記錄を永久にこの歷史として保存すべく、又次期事業の參考品としても有意義であるので今回各部に日記と金錢出納帳を交附學生幹事をしてその記錄に當らせる事としたが、これによつて今後部の活躍は一層活潑とならうと豫想される。

新馬命名式

（學部）昨年末より部保有馬の增加計畫中であつた學部馬術部では今回三頭を購入、その命名式を五月四日午後三時より佐藤大佐臨席の下に擧行、部長田邊信太郎講師により行はれたが、學部、豫科兩報國團より購入の各一頭は神戶學長により『千里』『朝風』と命名、又同部先輩、部員よりなる千里山騎士會よりの一頭は黑潮號と命名された。

土俵新裝なる

專門部校庶にある土俵が新裝された—近來國技としての相撲が競技としての單なる意義からではなく、眞の錄成方法として益々その意義が强調され來つてゐるので今回土俵を完備せしめんと計畫この程完成したものである。

報國團新幹事決定

學部報國團

▽總務部—入田順雄（法三）渡邊敏雄（商二）古澤龍介（法二）石垣喜申（法一）山本甚二（法一）中原健吾（經一）

▽修練部—大松眞行（法三）加藤儀市（政三）渡邊喜弘（經三）杉本敬彰（商三）大塚芳郎（法二）大熊隆志（法二）佐野秀吉（政二）平野喜八郎（經二）馬場宏（商二）小川秀和（法一）岡林廣也（政一）土屋司（經一）中野時雄（商一）

▽國防訓練部—池田兼憲（法三）馬術、射擊、栗林日出夫（商一）航空、自動車

▽體練部—川村太郎（法三）—弓道、野球久光幹雄（經三）—拳法、柔道　大西實（經三）—ラグビー、蹴球　北田法璋（商三）—陸上、蹴球　小林茂（祐二）—庭球、スキー　相光春之（經二）—水上、劍道　大西二郎（商二）—杖球、角道小島猛（商二）—山岳、卓球、籠球　服部次郎（法一）—洋劍　清田數美（經一）—漕艇、體操

▽文化部—高橋勝次郎（經三）—音樂　永野壹榮（經三）—見學　原正己（商二）—語學　津島輝三（法一）—映畫　武內英雄（政一）—美術　井上實（英一）—教養吉田剛治（商一）—研究

▽厚生部—山元一之（法三）西村直大（政三）與田茂夫（英三）井上政一（經三）藤本是（哲二）白井雅勝（政二）八代豊（經二）內海靜雄（商二）秋山清光（法一）小山實（經一）

專門部第一部報國團

▽總務部—原來左右（商三）黑田博（經三）上武文夫（法二）藤田茂樹（經三）飯田利郎（商二）勝部美明（法三）石本好男（經二）渡邊道男（商三）

▽修練部—茅原靜馬、田村進一郎（法三）黑田博、尾島實一、梅澤誠治（以上經

三）眞鍋守、木村俊男、瀧見毅、岩元勳（以上商三）西村一幸、倉地勤也（法二）石本好男、出田勝重、清田酉（以上經三）飯田利郎、劍菱重明、古富清森井彬（以上商二）

▽國防訓練部—木村俊男（商三）梅村武式（經三）河野喜成（法二）—航空　園田英一（商二）—自動車　竹中武（商三）—射擊　小泉博（經三）—騎道　茅原靜馬（法三）—銃劍道

▽體練部—眞鍋守（商三）朱鞘甲仔（商二）眞鍋守—劍道部　南正一（商三）—柔道　南部恒經（經三）—弓道　深田保美（法三）—相撲　上木正隆（商三）—拳法　宮崎淳（商三）—陸上　吉田正（法三）—水泳　森山欣司（法二）—野球　吉野吉雄（經三）—庭球　長谷川銀一郎（商三）—卓球　鹽本一郎（商三）—籠球　折口昌弘（商三）—蹴球　毛利淑彦（法三）ラグビー　山口茂爾（法三）—杖球　田中孝三（經三）—登山　小倉勤（商三）—スキー

▽教養部—黑田博（經三）會地勤也（法二）石井正文（商三）—國學研　横臼晋（商三）—東亞研　松本秀明（法三）—法律研　新田辰夫（經三）—經濟研　糀矢昇治郎（商三）—商業研　山脇修（經二）—語學研　山崎洋（商三）—藝能　新田正雄（法三）—雜誌

▽原生部—吉川朝治（經三）諸田酉、出田勝重（以上經二）森井彬（商二）

專門部第二部報國團

▽總務部—前田隆弘（法三）岸田辨藏、三宅正己（經三）田村房雄、大今楠郎、菰池博和（商三）田邊周、松川萬男、多田申嘉、增尾良（經二）

▽修練部—小倉俊三郎、吉峯英夫、鈴木重敏、越尾二郎、松井勇（以上法三）今村榮男、吉川信彦、山田秀太郎（經三）金田茂夫、幡井隆夫、仁熊士郎、房本仙太郎、岩淵秀三郎（以上商三）西村貞三、山口良太郎、田淵實夫（國三）服部正一、仁田順三、清水和喜（英三）北出久仁夫、平野孔夫、西村攝、菊池秀夫杉尾徹郎（以上法二）近田精吉、伊藤隆夫、篠木吉堯、油谷耕司、野間昌幸（以上經二）北村要雄、伊海文生、宇野弘中川洸、關益雄（以上商二）淺井音吉、田中茂（國二）神藤清、芳地修（英二）西村俊一、土田八朗、安丸周一、川崎保夫、澤田裕之（以上法二）岩本育正、年澄清、小室學（經二）名村孫夫、村田恒夫、澤田恭平、叶正利（以上商二）高野直孝、石井輝水（國二）渡部昌雄、馬場俊一（英二）

▽國防訓練部—中川一雄（商三）川瀨衛（法三）—射擊　長谷部正臣（商三）—騎道

▽體練部—植村文雄（法三）馬淵幸治（法三）—劍道　板垣忠義（法三）—柔道　藤仲敏夫（國三）—相撲　田方重雄（法三）—拳法　宮武忠男（商三）—卓球及金淳（商三）—登山

▽教養部—猪股俊信（商二）—國學研　高田一郎（法三）—東亞研　吉田弘雄（法三）—法研　金山弘之（經三）—經研　田邊幸治（商三）—商研　西村貞三（國三）—國語研　服部正一（英三）—英語研　今村榮男（經三）—藝能　南一男（經三）—雜誌

▽厚生部—小泉正夫（法三）北村要雄（商二）三好一夫（經二）

昭和十七年度大學豫科入學者出身學校別調査表

（括弧內は入學者數）

中學校之部

第一大學豫科

瀧川（五）　生野、大阪桃山（四）　富田林、上宮、關學中、三田（三）　北野、市岡、茨木、神港（二）　高津、八尾、鳳、四條畷、浪速、日大大阪、第三神戸、龍野、甲陽、郡山、五條、新宮、名寄、灘川、長岡、岡崎、松江、金光、廣島二中、海部、安藝、豐津、鹿兒島二中、川內、臺中二中（以上一名）

第二大學豫科

高津（七）　市岡、鳳（六）　北野、豐中、伊丹（五）　八尾、茨木、大阪桃山、上宮（四）　天王寺、住吉、岡山二中、小豆島、鞍手（三）　堺、今宮、生野、日大大阪、第二神戸、第三神戸、姫路、豐岡、小野、洲本、尼崎、瀧川、京都二中、舞鶴、膳所、富田、五條、天理、海草、德山、撫養、臨町、宇和島、朝倉、八代、杵築、臺中二中（以上二）

岸和田、富田林、四條畷、浪速、市岡夜間、高津夜間、加古川、鳳鳴、龍野、甲陽、神港、灘、京都三中、平安、京都、八日市、虎姫、宇治山田、宇陀、耐久、日高、田邊、北海、諏訪、身延、海津、濱松一中、熱田、半田、岡崎、惟信、大田、岡山一中、津山、高梁、金光、廣島一中、尾道、世羅、三次、忠海、興文、吳夜間、山口、宇部、鴻城、德島、高松、大川、三豐、北豫、今治、西條、三島、八幡、門司、三池、佐世保、五島、對島、工名、飯肥、鹿兒島一中、同二中、釜山、咸興、大邱、光成、臺北、大連一中、同二中、大連、新京一中、撫順（以上一）

中學校之部小計

▽第一大學豫科—志願者（四三一）、受驗者（三六八）　入學者（五八）

▽第二大學豫科—志願者（一、三五一）、受驗者（一、〇七〇）入學者（一九五）

實業學校之部

第一大學豫科

扇町商（二）　東商、關甲商、明星商、福島商、京都一商、四條商、廣島市商、高知商（以上一名）

第二大學豫科

關甲商（九）　天王寺商、神戸一商（四）大阪城東商、此花商、第一神港商、第三神港商（二）　市岡商、扇町商、西區商、堺商、大阪大倉商、明星商、北陽商、福島商、日新商、京阪商、東二商、姫路商、報德商、京都一商、四條商、東京府立二商、島田商、愛知縣商、米子商（各一）、釜山一商（以上一名）

▽第一大學豫科—志願者（一一〇）　受驗者（八九）　入學者（一〇）

▽第二大學豫科—志願者（五六四）　受驗者（四七六）　入學者（四五）

實業學校之部小計

▽第一大學豫科—志願者（五四一）　受驗者（四五七）　入學者（六八）

▽第二大學豫科—志願者（一、九一五）　受驗者（一、五四六）入學者（二四〇）

合計

▽第一大學豫科—志願者（五四一）　受驗者（四五七）　入學者（六八）

▽第二大學豫科—志願者（一、九一五）　受驗者（一、五四六）入學者（二四〇）

國家經濟と個人經濟

西田竹雄

一、はしがき

私は淺學菲才をも顧ず、此處に新經濟理論の一つの原理を提供して、共に研究して見たいと思ひこの論文を公開する。勿論多くの經濟學說や理論を一々紹介するのが順序だが、それらは多くの經濟學書や經濟史上に展開せられあるから、紙面と時間の節約の爲各學說は他に讓つて根本的なものに向つて展開しやうと思ふ。從つて說明の足らぬ處は諸賢の御考究にゆだねます。

二、個人經濟

個人經濟は資本主義經濟に於ける個人主義經濟を指すものでないことを斷つて置く。私の言はんとする個人經濟は其の經濟活動圈を個人又はその個人が家族を有する場合、その家族を擁して一家の生活圈を指す。從つて、資本主義經濟に於ける個人の資力のあらゆる方面に渡つての活動をなし得る廣大なる生活圈を指さない。此處に私の云はんとする個人經濟は個人の私的生活を意味し、其の私的生活圈を個人の活動自由なる天地と見做すのである。資本主義經濟の個人の活動天地は私的生活は勿論のこと資力に應じて何處までも無制限に認められてゐる。例へば資力に依つては一國の國民全部でも賃金を支拂ふことによつて使用せられ、或は國土の大部分の永代借地權をも獲得出來るものである。斯の如く個人の資力による活動を認め、是が正當視されてゐたことは不思議である。今日國家經濟上國家の意思による統制が加へられつゝある事は、今迄正當視されてゐたものが、民族や國家の進展に從つて、新らしい經濟への第一歩を經濟史に示しつゝあるもので其の歷史的地理的關係によつて變化して來たものである。即今までの資本主義經濟が歷史的地理的關係によつて其の生活圈に變化をもたらして來たことを證明するものである。

從來の經濟學は例へば欲望の如き明瞭な限界のない、掴み處のない、心理作用の一つをとらまへて、是が濟經目的の根源であるとすることに於て重大なる誤りを冒した。吾々が生活と云ひ經濟と云ふ限り、欲望や快樂と云ふやうな一片の心理的現象が、其の滿足を以て基準とするが如きなまやさしきものではない。生命を保持する上に於て缺くべかざる生活圈を土臺としてこそ最も意義あるものである。一片の心理現象のみが個人を完成してゐるものではない。若し經濟目的が欲望の滿足であるならば吾々は心理に對して心理を以て答へ、即ち宗教的安心立命の一つをとつて欲望を滿足させば事足る。生活と云ふ人間のみならず一切生物の根源は生々しき生命を保持し發展さす處のものである。吾々は空虛な一片の心理作用を以て、其れが求むる處の經濟生活を正しとどうしても認めることが出來ない。欲望の滿足が科學的學の根據として正しいとする學說は認めることは出來ない。

同樣にマルキシズムも勞働者の一方的發展を世界的にまで主張した非國家的非民族的な學說も資本主義經濟の發展と同じ軌道にあるもので、何等とるに足らない。吾々の生活が民族や國家から離れて一躍世界生活に根底を置かんとする空想的なマルキシズムや、世界經濟を夢みる資本主義經濟の個人の欲望さへ十分に滿足さし得ぬ經濟學が立派な經濟學であると主張された時代は既に去つた。どれもこれも現實の生活より離れた空理空想であつたのである。民族や國家を忘却した人類とか社會とか云ふ非民族的非國家的學問は同時に文化面より見ても全く非科學的なものである。其の理由を次に示さう。

三、文化と經濟

如何なる一片の文化とは云へ或は世界文化とは云へ、それには人類とか社會とか云ふ漠然たるものゝ所產ではなく、必ず其處には歷史的地理的關係を持つ民族や國家の個人の生活から產れたものである。最初から世界觀的所產ではない。又普遍妥當な學問的所產でもない。科學と云ふものもそうである。今日世界的學者は常に科學的であらねばならぬと云ふ。其科學に對する見解は全く世界觀的なもので漠然として科學に對する一定した見解がない。或は合理的學問的であるとか、或は宇宙の規範であるとか、全く以て吾々の生活其者を忘却した主張をなしてゐる。されば文化とは一體如何なるものであるか。是が解釋は今日まで多くの學者に依つてなされたが其の解釋も科學と同樣に一定したものが見られない。然しよく考へて見れば、文化は吾々の所產である。吾々の生活から產れた、そしてその文化には特徵がある。支那文化だとか印度、バビロニヤ、エヂプト、或はギリシヤ、ローマ、ユダヤ等の文化があつた。其處には各々その名の示す通りに民族や國家の名前がついてゐる。同樣に夫々の特徵を持つたもので一つとして世界的國際的なものはない。然るに多くの學者の科學的な見解によれば、普遍妥當な世界的な判斷で以て、その各々の普遍妥當な特徵や特質や原理を發見して、以て學を構成せねばならぬと、或は是に類したことを主張して科學的だと信じてゐるらしいが、これは一面尤もな樣であるが、反面無理にあらゆる現象を一つの色眼鏡を通して各々の共通點を發見せんとする處に認識の間違が生じる。吾々の生活より

發揮する如何なる現象も最も密接な關係を以てゐるものは、その民族性であり國家の制約の中に強き特徴を發揮するもので、決して科學者流に平板化された世界觀を許し得ないし、骨拔をしてものを正しく認識し得ない事を知らねばならぬ。

經濟も御多分に漏れず、其の認識より一歩も外へ出るものではない。一國の經濟が他國の經濟とか接觸し交渉する關係を以て國際經濟とか世界經濟とか云ふが、其の各々の國家には明らかに夫々違つた國家經濟を持つてをり、それが爲に接觸し交渉し關係するもので、最初から世界的なものが在つたのではない。文化の文化たる所以は其處にあるのである。敢て文化の定義を下すならば、文化とは國家或は民族の地理的歴史的關係による意思と特徴を物質或は精神によつて表現せられたるものである。經濟のみに限らず、一切の學問藝術は總てこの定義より一歩も外へは出ぬものである。此處に一切文化の文化たる生活の所産があるのであつて、漠然とした特徴のない文化とはあり得ないものである。

經濟も同樣にして必ず民族や國家の歴史的地理的關係の下に其の意思や特徴が濃厚に物質や精神によつて表現されてゐるものである。

戰爭の如き國家や民族の生命線に於て展開されるもの、勝敗は時の運とか云ふ一方から見れば惡であり、他方から見れば善であり、或は正と見、不正と見、或は生死の兩方を表現する處のものが、國際的に於て爲され、成立し、行はれてゐる今日、是を何と考へるか。戰爭も一つの文化である。それが宗教戰にしろ、經濟戰にしろ一つの文化である。この文化も同樣にして民族や國家の歴史的地理的關係に於ける意思と特徴の表現である。戰爭をして始めて、民族や國家を思ひ出す樣な文化は眞の文化ではあり得ない。學問研究も同樣に戰爭に相過して民族や國家を思ひ出す樣では空理空想の學問研究であつたことを知らねばならぬ。斯樣にまで嚴密に考究した時は如何なるものも文化の眞體に觸れざるを得ぬのである。中には戰爭哲學まで主張して國際道義云々と判斷の標準を示す者もあるが、何が國際道義か。一切の文化はよかれ惡しかれ民族や國家の歴史的地理的關係による意思と特徴の表現である。經濟を論ずるに當つて是を忘却して、他の民族や國家の文化とも云ふべき經濟を自國にそのまゝ適應して、それが經濟學だと主張する者は學問の本質を忘却せる不可解千萬の至りである。

四、國家經濟

國家經濟は財政學に於て多く述べられてあるもので、一口に言へば國家の生活をなす處のものである。國家の生活は國民によつて爲されるものであるが、私の主張する處の國家經濟は個人經濟を除外したものである。國家經濟を明瞭ならしめんが爲に更に個人經濟の限界を明にし同時に說明しやう。個人經濟の限界は個人の私的生活に基準して、其の生活の中に不必要な他の個人を入れぬものであると同時に個人の私有財産を認めるが、その財産は個人の生活のみに使用し得るもので、絶對に生活外の目的を以て必要以上の個人の無制限な收益を計る爲に他の個人を使用したり、國土の使用權を獲得したりすることは出來ない。以上の個人の私的生活より一歩出でて、自己の爲に他の個人の勞働を收得して個人の生活に不必要な收得を得たり個人の生活に不必要な國土の使用權を得ることは國家經濟圖を侵害するものである。以上の樣に考へる時國家經濟は個人の私的生活圏外の總てを指し示すものである。これは何等新らしい理念でもない。斯樣な理念は道德上他人の生活を自己一個人の思ふ樣にすることは何としても許されないことであり、國家以外に國民の生活を制約することは出來ない。人間としての人格のない單なる資本と云ふ金力で他人を自由に驅使することは個人の家庭生活に必要な使用人として使用せざる限り、これは許されないものである。國民が國家の意思に從つて勞働を提供することゝ、資本家に國民が勞働を提供することは根本的に相違するものである。是を同一性質のものであると考へるものは恐らくあるまい。此處に國家經濟の國家經濟たる處が明である。單なる國民の納稅義務や銀行政策や統制經濟が國家經濟の主なるものとして考へてゐたことは過去の資本主義經濟の副産物である。これが所謂資本家の番犬的經濟であると云はれたもので、斯樣な國家經濟が今まで何の不思議もなく國家經濟として請められてゐたことは全く無力なさけない國家經濟である。

國家のみが國民をして私的經濟を保證すると同時に國民を自由に驅使し得るものである。この國家の重要な經濟力を資本主義經濟では個人の資本家の正當な力として見做してゐたと云ふことは大いなる間違である。今日國家は民族や國家本來の姿を自覺して、資本主義の國家經濟を侵害せる點を知つて、徐々に國家本來の經濟力を回復して、統制をなし資本主義をして段々と私の所謂個人經濟に還元しつゝあることは當然のことである。これは戰爭の爲の一時的現象ではないのである。國家は愈々本來の經濟力を獲得し戰時國民の私的生活を壓制することあるとは云へ、國家經濟の特徴は全國民の私的生活をして民族や國家の意思や特徴を益々發揮して、文化生活の水準を益々向上せしめるものである。

過去にあつては資本主義經濟の自由の進展より一個人資本家の收益のみ大にして、國民の生活は益々最低賃銀政策によつて搾取せられ、一方に於て資本主義經濟が急激に發展するも、他方に於ては勞働者農民の生活が窮迫をつげ、是が一國内の現象に止らず、英米の東亞に對する如く、支那や印度、ビルマ、蘭印にその資本主義經濟の主張する生活の欲望滿足

は資本主義國家のみ得る處となり、他民族や國家は全く塗炭の苦しみを味ふに至る。斯の如き經濟は眞の經濟ではない。言はゞ英米流の經濟で、彼等の所謂世界經濟でも何でもないのである。斯樣な經濟より一日も早く脱却せねばならぬ。學問を爲すものは其處によく學問の眞の世界觀を洗練し根本的に間違のない認識をせねばならぬ。今日日本やドイツのとり來つてある經濟政策の總ては私の所謂國家經濟の理念に於てのみ正しい。斯樣な理念は古からあつたのである。私的生活と云ひ公的生活と云ひ、其の意味する處は私と云ふ小さな存在を示し、わたくしすると云ふことは不道德の一つとして敷へられたものである。公は言はずも知れた國家的意思を持つもので、私的生活は公的生活に比較して實に小さな存在であつたのである。然かるに資本主義經濟が横行するに至つて私的生活が主たるもので公的生活は個人の生命財産を守る番犬的從屬的な位置に轉落せしめられたのである。如何に時代の勢とは云へ國家經濟は全く資本家の獨占となつたと云ふことは遺憾なことである。

國家經濟が斯の如く本來の姿に立歸つたならば、それを經理する處の政治方針も必然的に變化するものである。即政治經濟が國家の思ふまゝになる。處で今日まで十分經驗をなし得なかつた斯の如き國家經濟力の運營をなすに當つて、十分の注意と深い考慮を拂はねばならぬことは明である。

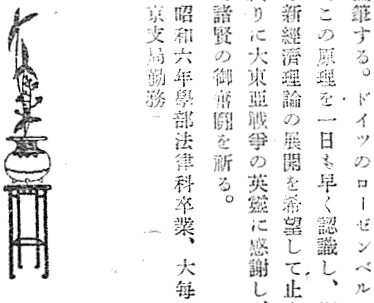
五、國家經濟の發展

國家經濟も前に述べた如く一つの文化である。常に民族や國家の歴史的地理的關係によつて意思や特徴が濃厚に表現されるもので、平時と戰時とは勿論區別されると同時に其の經濟發展にも自ら變化を來し、臨機應變的處理に出づることは勿論である。其處で今日吾々は前に述べた如き强力な國家經濟の原理を知つてそれが平時に於て普通に展開されることを考へ次に戰時にあつては如何なる現象を發揮するかを考究する。されど詳細な點に渉つて是が論究することは如何なる賢者と云へども完全に爲し得るものではない。常に實行と相俟つて事實を展開し、其の事實に基いて更に理論の展開をして完全なものたらしめると同時に更に進んで實行へと移り、常に生活に對する歴史的地理的關係と相俟つて、世界の動きや自然現象の外力をも考慮せねばならぬ。是は眞面目に生活を討究する者にとつては自然的考慮となつて、それが適當な方法や手段を發見し得るものである。

國家經濟の發展は國法に於ける國民の經濟に對する根本的指示である。それは必然的に變化を要求する商法、民法、刑法とあらゆる部門に變化を來す。國家が國民生活に對する、あらゆる方面に渉つて、個人の私的生活を厚生せしめること、國民の教育に於て常に民族的國家的な教養に注意をなし、他民族や國家の文化を空想より去つて事實を尊重して常に教理を展開せねばならぬ。形式的文化の研究と同時に民族や國家を特徴づける處の實質的文化を益々研究して、是が肇國の理想或は思想として國家の最も意を用ふべき處である。利息經濟より去つて物資の保存や物々交換の原則をよく研究し有無相通ずると同時に生活資材の機能よりまぬがれしめねばならぬ。他國との戰爭がある場合必ず勝ち得る準備をせねばならぬ。統制經濟より一歩進んで完全な國家經濟へと進展せしめねばならぬ。等其他色々あるが枚擧に遑がない。

扨て國家經濟の主眼とする理念を他の言葉で直截的に言へば、何よりも第一に生命の保持に最も必要な國民の個人生活の完成である。例へば此處に不幸にして兩親を失ひ、更に他に養ひ手のない孤兒が出來たとする。而もこの孤兒は立派な日本國民である。然かるに國家にはこの孤兒を養ふべき責任がない場合、この孤兒は立派な日本國民でありながら遂に死亡するか或は過去に於ける資本家の慈善事業や社會事業團に救はれるより外に生命を全うすることが出來ない。これ等は非常に極端な例ではあるが、同樣な不具癈疾の老人等も立派な日本國民である。然るに養ひ手を失つた場合は孤兒と同樣の境遇になる。更に進んで國民が資本家の手を離れて國家經濟の下に勞働を提供して生活するに至れば益々國家は國民の生活をして充實せしめねばならぬ。あらゆる一切の社會的設備を完成すると同時に國民をして十分の能力を發揮せしめねばならぬ。斯の如く國家經濟は今までの無力なものでなく、立派に實力ある經濟力を發揮する時は是が原理に照して一切の文化施政に十分なる肇國の理想實現が可能となり、皇道世界政治觀をも構成し得るものである。されど敢て斯樣な空想に墮落し易い道を選ぶよりも、しつかりと民族や國家を認識することが最も大切である。富國强兵、大東亞建設も意のまゝに成就し得らるゝであらう。或はかのプラトウの絶對的理想國の如き文化國家建設が大地域の大民族によつて實現の可能性をも夢見得らるゝであらう。

六、むすび

以上甚だ不十分の論述になつたが、私が述べんとする處を諸賢の推察に委ね、一先擱筆する。ドイツのローゼンベルグをしてこの原理を一日も早く認識し、堅實なる新經濟理論の展開を希望して止まぬ。終りに大東亞戰爭の英靈に感謝し、併せて諸賢の御奮闘を祈る。

（昭和六年學部法律科卒業、大毎北京支局勤務）